

学校生活におけるルールを身に付けさせるための試み

～絵・写真カードの活用～

仙台市立鶴谷特別支援学校

教諭 佐藤 友宙

1 はじめに

私は今年度、小学部の1年生の学級担任をしている。在籍している児童は5名。その中にとっても活発な児童がいる。それが、今回指導を試みたAである。Aは、自閉症と精神発達遅滞の診断を受けている。トランポリンを跳んだり、ローリングシーソーで回ったり、体を使った遊びが大好きである。

さて、なぜ今回本児に対して指導を試みたかという点、癩癩があり、要求したことが思い通りにならないと物を壊すなどの行動をとってしまうことが多くあったからである。

学校生活において、守るべきルールがいくつかある。そのルールを、本人に分かりやすいように提示し、教えることで、少しでも癩癩を減らして欲しい。また、ルールを理解することで、癩癩を起こしたとしても自分で落ち着けるようになってほしい。以上のような思いから指導を試みた。

なお、この論文の発表に関して保護者からの同意は頂いている。

2 児童の実態

コミュニケーション、認知面の実態や行動特性は以下のとおりである。

- ・言われていることはほぼ理解している。指示と自分の意思が相違なければ、応じて動くことができる。
- ・人の手を引いたり、指さしや大きな声を出したりすることで、自分の欲求や要求を表すことが多い。
- ・変更やダメ等の制止や、×の提示、他児との玩具の貸し借りですぐに応じてもらえない等の場面で感情（怒り）をコントロールすることが難しく、物を投げる、物を投げて壊す、壁を蹴る、ガラス窓に体当たりしたり両手で激しくたたき割ったりする等の行動で怒りを表し、落ち着くまで時間がかかる。
- ・鍵の仕組みが分かり、自分で開けて飛び出して行ってしまふことがある。

専門機関による検査の結果は、以下のとおりである。

K式発達検査 運動（検査せず）認知 2:6 言語 1:5

発達年齢 2:2

入学当初、プレイルームという教室前にある広場で遊んでいた際は、終わりの時間が来て教師に「終わりだよ。」と言われたことに納得できず、教室前で寝転がり、教室の扉を蹴って外してしまうということがあった。もちろん、初めての環境で戸惑いも多くあっただろうし、見通しも立たないということで本人はそのような表現になったと考えられる。

3 視覚支援の有効性

本児は、体を動かすことも大好きだが、同じくらい製作活動も大好きである。折り紙をちぎって貼り絵にしたり、スポンジに絵の具を付けて模様を付けたり、「やりたい。やりたい。」と目を輝かせて製作活動を行っている。

その際、活動の手順を写真で示すようにしている。事前に貼って見せるとじっと注視をして活動を楽しみにしている様子が毎回見られた。また、見本の写真と同じように製作したいようで、何度も写真を見返しながら製作する様子も見られた。

本人の好きな製作活動を通して、本児に対して視覚支援は大変有効であることが分かった。そこで、絵・写真カードを活用しながら学校生活のルールを教えようと考えた。

4 三輪車のルールを身に付けさせるまでの実践

4、5月は学校生活に慣れるためにもたくさん遊ぶ時間をとった。プレイルームでの遊びにも慣れ、トランポリン、ローリングシーソー、オーシャンスイングなど様々な遊びを楽しむようになった。中でも、三輪車に乗ることが大好きで、プレイルームに出る度に三輪車がしまっている倉庫を指さし「出してほしい。」とアピールしてきた。

三輪車をこぐことに慣れてくると猛スピードでこぐようになった。自分の学級だけでプレイルームを使っているときには危険は無いが、他の学級も自由に使える朝や昼の遊びの時間は、遊んでいる児童が増えてぶつかる可能性があって危ないということで、その時間の使用は禁止となった。もちろん、学級のみ時間は使用できるが、今まで自由に使っていた時間は使えなくなってしまったのである。

(1) 三輪車カードを使ったやりとり

6月19日水曜日、教室を出る前に写真カードを見せながら「今は乗れないよ。」と伝えてから出たが、我慢できず教材庫を蹴るので、教室のクールダウンスペースへ移動。一度落ち着きプレイルームへ出るが同じような状態になり教室へ戻る。午前の授業後に少し三輪車に乗る時間を取ると、三輪車に乗れなくても昼休みは本人なりに納得して遊ぶことが出来た。

6月20日木曜日、朝の遊びの時間に同じようにカードで伝えてから教室を出るが、前日同様の様子だったのでクールダウンスペースへ移動させた。前日より早く落ち着き、プレイルームへ出ると、廊下の端まで走って行き、そこで転がり泣いていた。間もなく遊びが終わる時間に、「もう少しで遊ぶ時間終わりだよ。」と言葉掛けをすると、プレイルームへ戻り、トランポリンで遊ぶことが出来た。この日も午前の授業後に少し三輪車で遊ぶ時間を取った。

6月21日金曜日、この日以降は、教室を出る前にカードを確認をすると前日までのように怒って遊べなくなることはほとんどなくなった。また、午前の授業後に三輪車に乗れない日があっても怒ることはなくなった。



写真1【三輪車に乗っていいときに提示したカード】



写真2【三輪車に乗っていけないときに提示したカード】

(2) 三輪車カード以外の視覚支援

教室から出る前に三輪車の写真カードを提示するとともに、プレイルームの倉庫の扉に次のような一覧表を貼るようにした。



写真3【遊ぶ道具の一覧表】

「他のものなら遊んでもいいんだよ。」と伝えながら、「今は人が多いから三輪車は使えないよ。」と伝え続けた。もちろんはじめは納得できずに癩癩がひどかったが、視覚支援をしつつ、三輪車を使って良い時間を保証することで思ったよりも早くルールを身に付けさせることができた。

さらに、7月になると、朝の着替えが終わりプレイルームへ出たいというアピールで、プレイルームの写真とさらに自ら三輪車Xのカードを教師に見せるということがあった。朝の遊びの時間には三輪車は乗れないということを、カードを使って確認をしてきた結果習慣化してきたことがうかがえた。

5 持ち帰りのルールを身に付けさせるまでの実践

4月当初から、帰る際に、毎日体操着を持ち帰りたがるので（持ち帰るのは基本、金曜日）、本人の目に入らないように、別の部屋へしまうことで持ち帰らないようにしていた。特に、体操着入れや上靴入れなどが教室に置いてあると、入れて持ち帰りたいという気持ちを抑えられないので、金曜日以外は別の部屋へしまうようにしていた。

しかし、しまっている場所が分かってしまったことと、学校生活に慣れてきて教師とのラポートも取れてきたということもあり、絵カードを活用しながら持ち帰りのルールを理解させるよう6月になってから試みた。

「持ち帰り○、持ち帰りX」というカードを作り提示するようにした。



写真4【もちかえりカード】

はじめはカードを見ても納得できずに持ち帰りのない日でも体操着や着替えなどを持ち帰ろうとして怒ることもあったが、他の児童が持ち帰っていないことや、曜日カードと持ち帰りカードを提示し説明をすることで別の部屋へしまわなくても体操着を置いて帰れるようになった。

6月24日の月曜日から始めて、1週間でルールを身に付けさせることができた。

6 プール学習のルールを身に付けさせるまでの実践

本児は、プール学習が大好きで、水着を持って来た日にはニコニコした表情で教師にプールセットを見せに来て大変微笑ましい。しかし、本人の中で

水着を持って来る＝プールに入る

というルールになっているようで、プールのない日でもとにかく着替えようとしてしまう日が続いた。そこで、本件に対しても絵カードを使つての指導を試みた。

6月28日金曜日、前日にプールの学習があった翌日であり、プールの学習がない日だったが、プール道具を持ってきた。朝に教師にプールセットを見せて嬉しそうにしており、「昨日楽しかったね。」と言葉掛けをした。水着に着替えたような様子だったが、他の児童が体操着に着替えていること、そして着替えた子達がプレイルームに遊びに行った様子を見て、体操着に着替えることができた。しかし、朝の遊びが終わり、教室で朝の会をしていると別の学年がプレイルームでプール前の体操をしているのが見えてしまい、会の途中だったが水着に着替えてしまった。朝から「プール×」のプール学習はないというカードを見せていたが、それでも我慢できなかったようだった。朝の駆け足・体操の時はそのまま水着で行ったが、午前の授業が音楽であり、音楽室に行くということを伝えるためにカードを提示すると納得できない様子だったが、体操着に着替えることができた。プールの学習がないことや水着に着替えないことなどは分かっていたようだが、プールに連れて行ってもらえないか試しに着替えてみたようだった。

7月1日月曜日、プールはないが、登校後すぐに先週末から置いていた水着に着替えてしまった。「プールはないよ。」とカードを提示して伝えていたが、分かっているが着替えずにはいられないという様子。水着のまましばらく様子を見ると、他の子と同時にプレイルームへ出た。すると、プールへつながる入り口前で「行きたい。」と指さしを繰り返す。「今日はプールじゃないよね。」と言うと、大きな声を出しながら横になった。15分ぐらいの朝の自由遊びの時間中はそこに横になっていたが、教室に戻ると自分で体操着に着替えることができた。(保護者に、当日の様子を伝え、プール学習のある日だけに水着を持参することを確認した。)

7月2日火曜日、プール学習のある日でプールに入ることができた。

7月3日水曜日、プール学習のない日で、水着も持参しなかった。

7月4日木曜日、プール学習の予定の日だったが、雨がたくさん降っており、気温も低めだったため中止になった。前日の連絡帳で「気温、水温、天候によりプール学習の予定だったが、なくなることがあるので、本人に伝えておいてもらえると助かります。」と書いていたところ、「雨だからないね。と何度も確認をしましたがどうかな…。雨だと外で遊べないということは分かっているのですが。」とのこと。すると、プールバックは持ってきたものの、体操着に着替えられた。ご機嫌で朝の自由遊びをしているので、そのままスムーズにいくかと思っただけ、教室に戻り、朝の会が始まる前から不機嫌になった。かごを投げたり、リュックを投げたりするので、クールダウンスペースへ移動させたが、「プールに入りたかった」と訴えているような表情で、不機嫌な様子は変わらなかった。駆け足・体操の時間になり、教室を出ると、トランポリンに飛び乗ろうとする。それを制止されると横になって寝る。廊下の端で転がる。午前中の体育の時間も同じような様子だった。給食を食べ終わると機嫌が戻りいつも通りの様子に戻った。

7月5日金曜日、水着は教室に置いたままだったが、気温も低かったためか水着を教師に持ってくることも着替えることもなかった。夏休み前のプール学習は、天候や気温の関係でこれ以後は実施されなかった。

夏休み明けにも数回プール学習はあったが、夏休み前までのやりとりでルールが身に付いたようで、着替えに関する問題は特に起こらなかった。



写真5【プールカード】

7 バス乗車後のトイレに関するルールを身に付けさせるまで

10月になり、寒くなってきたからかAがトイレに行きたいと訴える回数が多くなった。学校内で生活している分にはすぐにトイレへ行けばいいので問題ないが、下校時に通学バスに乗り終わってからトイレに行きたいと訴えることがあった。下校時のバスの発車時間は決まっており、トイレへ連れて行くことで時間を遅らせてしまった。そこで、下校のバスに乗る直前に教室でトイレへ行ってから乗せるようにした。それにも関わらず、バスに乗車した後にトイレへ行きたいと訴えることが2回続いた。

バスに乗ってから教室のトイレへ連れて行くと時間がかかりすぎるため、職員も使ういつもと違うトイレへ連れて行っていたのだが、どうやらそのトイレが気に入り、訴えている様子がかがえた。そこで、次のようなカードを使っての指導を試みた。



写真6【バスに乗った後はトイレXカード】

帰りの会でカードを見せながら「バスに乗ったらトイレは行けません。」と伝えるようにした。さらに、教室を出る前にカードを見せながら「バスではトイレ行けないから、教室でトイレに行っておこうね。」と伝えた。

カードを使った初日は、バスに乗った後にトイレへ行きたいと訴えることはなかった。数日同じように繰り返し指導した結果、バスに乗った後にトイレへ行きたいと訴えることはなくなった。

8 成果と課題

(1) 成果

①絵・写真カードの有効性

本児童に対してルールを教える際には絵や写真カードが大変有効であった。特に、三輪車の使用や体操着の持ち帰りに対してはカード使って指導をしたことが、本人の理解を助けたと思われる。今後も絵・写真カード等の視覚支援ツールを活用して指導していきたい。

②他児へも有効なツール

写真3の【遊ぶ道具の一覧表】は本児のみならず、他のクラスの児童にも有効であった。プレイルームに一覧表を貼ってから、「どれで遊びたい。」と他のクラスの担任がそのクラスの児童に尋ね、遊びたいものを指差すといったコミュニケーションを取る場面も見られるようになった。本児に対しての支援であったが、他のクラスの児童に対しても有効な支援だったようだ。

③写真・イラストの上に○×があるカードへの理解の深まり

初めにカードを使って指導した際は中々本人の中でルールが理解できずに怒ったり泣いたりしてしまうことが多かった。しかし、写真・イラストの上に○×が描かれているカードを使い続けてきた結果、意味を理解しルールとして捉えられる時間が早くなったように思う。今後も同じようにカードを作って提示することでルールを身に付けさせることができるだろう。

(2) 課題

①繰り返し指導することの必要性

もちろん、絵・写真カードを提示したからといってすぐにルールを身に付けさせられるわけではないので粘り強く、繰り返し指導することは必要である。

②周りの状況を伝えること

本児が体操着を持ち帰りたいときには、他の児童の体操着も持ち帰るよう教師に伝えたり、水着に着替えたいときには他の児童も同じように水着に着替えるように伝えたりするなど、みんなを一緒の状態にしたいという気持ちが強い。そこで、ルールを身に付けさせるには周りの状況を理解させることも重要となってくる。絵・写真カードを使いながら、他の児童の様子を伝えるようにすると状況とルールが理解できるようだ。

③気持ちを受け止めること

本児の要求として、ルール違反のものも時にはある。しかし、ルールはルールとして伝えながらも本人の気持ちを共感的に受け止めることは大切である。「～したいんだね。」「～ならできるよ。」「～の時にやろうね。」など、「～してはいけない。」と否定だけするのではなく、別の行動を提案することでルールを受け入れやすくする手助けをすることは大切だと考える。

Aは、ルールは理解しているけど、それでも我慢できないということが多くある。本人の気持ちを受け止め受容した上で、ルールはルールとして提示することを繰り返すことで様々なルールを身に付け穏やかに過ごせていくことと思う。

【参考文献】

- ・東田直樹(2007)『自閉症の僕が跳びはねる理由』株式会社エスコアール出版部
- ・東田直樹(2010)『続・自閉症の僕が跳びはねる理由』株式会社エスコアール出版部
- ・ウタ・フリス(2012)『ウタ・フリスの自閉症入門』中央法規出版株式会社
- ・大高正樹(2014)『知的障害のある子への「日常生活」の指導と教材』明治図書出版